

元気おおとよ新聞

発行元: 特定非営利活動法人 元気おおとよ <http://www.genki-otoyo.org> 平成28年10月1日発行 No.15

第2回「おおとよ やまこん」レポート

2016年7月9日 (土)

今年も“田舎暮らし体験を通じた男女の交流イベント”「おおとよ やまこん」を開催しました！

去ること7月9日、第2回目のおおとよやまこんを開催しましたので、その様子を
ちらっとお伝えします。

今回は男女ともに4名で計8名の方が参加してくれました。前回同様、このイベントでは田舎暮らし体験を通じて男女の交流を深めてもらいます。当日は「薪割り体験」、「竹でご飯を炊いてみよう」、「バームクーヘン作り」、「バーベキュー」を行いました。竹を釜代わりにして直火でご飯を炊く竹ご飯作りでは、竹の釜を作るところから行い、美味しい竹ご飯を炊き上げました。

バームクーヘン作りは竹の棒にホットケーキの生地を垂らしながらBBQの炭火を利用して焼き上げます。棒を持って回しかける必要があるので参加者同士が協力して最後はなかなかのバームクーヘンが完成しました。味ももちろんグッドでした。最後は参加者全員がメッセージカードを交換して今回のやまこんを終了です。今回もカードの中身は渡された本人しか知りません。

ここから新たな展開があるのか！？ (猪野大)



28年度 移住相談・移住実績

～途中経過～ (4/1～8/31まで)

▼ 移住相談

電話・メール・来町 30件

▼ 移住実績

実績・・・8組(13名)

▼ 移住元

高知市、佐川町、大阪、東京、埼玉
本山町

▼ 移住先地域

目付、黒石、東寺内、西川、川口、
立野、立川

移住者紹介のコーナー

6月1日より、大豊ゆとりファームで活動しています、吉田裕香です。
昨年まで神奈川県で農業をしていましたが、畑の宅地化をきっかけに、もっと自然あふれる所に住みたいと思って探していたところ、知人達から勧められたのが地域おこし協力隊でした。自分に合った活動内容の大豊町を見つけ応募しました。こちらに来てあっという間に3か月が過ぎました。まだまだ不慣れなことばかりですが、よろしくお願ひします。

地域おこし協力隊として活動を始められた吉田さんと山崎さんに自己紹介していただきました。

よしだ ゆか
吉田 裕香さん



出身地:東京都
大豊ゆとりファーム勤務

やまざき つばさ
山崎 翼さん



出身地:黒潮町
大豊ゆとりファーム勤務

5月頃から大豊町に地域おこし協力隊として、ゆとりファームで農業をしている山崎と申します。
農業をやってみたくて、祖母の実家のある大豊町へ応募しました。農業とは今までに関わりもなく、3か月経ってもわからないことばかりで、毎日覚えることが多いので時間が経つのも早いです。今はピーマンを任せられ、育てています。収穫ができるか不安でいっぱいでしたが、収穫の時期になりたくさんとれてホッとしています。これからも農業の勉強をしながら、頑張っていきますのでよろしくお願ひします。

そば物語イベント 種まき編を行いました！ 2016年8月20日（土）

8月20日（土）に、そばを学んで作って食べてみようというイベントを梶ヶ森の中腹にある畑で行いました。このイベントを立ち上げたきっかけは、近年、過疎や高齢化により、大豊町のそば作り文化が失われつつあると感じたからです。現在NPO法人元気おとよでは、大豊産のそば粉を使ったクレープ「おとよガレット」の移動販売事業に取り組むことによって、そば作りの文化を支えつつ、次世代に語り継いでいく事を考えています。そこで行った本イベントには、南国市から2名の参加者があり、天気にも恵まれ無事に行うことができました。イベントでは、トラクターを使った畑の耕耘、ソバの種まき、おとよガレットの試食をしました。参加者は、初めて乗るトラクターに緊張しながらも、「難しいけど、楽しい！」と喜んでいました。種まきでは、なかなか均一にまくことができず、ソバが生えなかったところも…簡単なようで難しい…最後にみんなでガレットを食べてもらい、「一度食べてみたかったのでうれしい！」、「これ美味しいな！」など最初から最後まで楽しく行うことができました。そば物語の続編は、ソバの収穫と理事長によるそば打ちを予定していますので、興味ある方はぜひご参加ください。

（中平）



空き家に関する情報を募集しています。

お気軽にお問い合わせください。

電話 **080-8635-2253**

担当：野田

受付 9:00~19:00

「つげハウス」でPTC!?

元気おとよが運営するお試し滞在住宅「つげハウス」を利用して、おとよ小学校6年生のPTC活動を行いました。PTC活動とは、Parents保護者 & Teachers先生 & Children児童の3者でレクリエーションを楽しむ活動のことです。

つげハウスは、平屋建ての住宅と広い敷地が特徴です。その敷地を使い「流しそうめん」と「炭焼きバーベキュー」を楽しみました。流しそうめんは8メートルの竹を割ってつなぎ、全長16メートルの水路を作って「そうめん」と「はるひ畑さん提供の真っ赤なトマト」が豪快に流れました。大人も子供も大興奮でそうめんを追いかけました。

PTC終了後、希望者はそのまま宿泊し、防災キャンプを体験してもらいました。たくさんの方に喜んでいただけたようで、大変有意義なイベントでした。

つげハウスは、主にインターンシップ事業（町外から大豊町で仕事体験に訪れる人のために滞在場所を提供する事業）に使用していますが、この個性的なロケーションを使ってもっとおもしろい使い方ができないか模索しています。

また、町内の皆さんにも利用していただく機会を増やしていきたいと考えています。利用してみたいという方はぜひご相談ください。

（太田）



施餓鬼～吉野川に浮かぶ怪物～

炎 天下の中、橋の下で数人の大人たちが汗を流しながら丸太と竹で何かを組み立てている。8月18日、船戸での朝7時半からの施餓鬼舟作りを見学させてもらった。



時間との勝負。真夏の日差しが強くなる前に大体の力仕事を終わらせたい所だ。だが今日はなんだか勝手が違う模様。「ちと、遅れちゃうかよ？わしらも年じゃけえ、若いもん引き継いで監

督したいのう！」ちなみにここでの若いもんは60歳ぐらいまでだという事が後々感じ取れてきた。私(30歳)なんかはまだまだ子供だろう。それほど高齢化が進んでいるという事だ。最後には、高さ15mはあろうかという巨大な怪物が夕暮れに姿を現した。この世を去った人々を弔う気持ちが大きさに現れる気がした。

すごく大変だけど、これをして利益があるわけでもない。でも守りたい。強くそう思った。

（猪野孔）

